

三井のリフォーム 住生活研究所 所長 西田 恭子

リタイア後のリフォーム主導権

現役を退かれ悠々自適の暮らしをされている方から、最近、酒宴で盛り上がる話題として、こんなことが……という面白いメールをいただいた。

「愛されるジジイ」になるための七カ条

一条… 妻は「上司」と心得よ

二条…

ゼロから「女の世界」で生きる覚悟を

三条…

戦わずして負けよ。勝てば勝つほど離婚が近い

四条…

定年（五年前）から準備を始めよ

五条…

夕夕で話を聞いてくれる人はもういない

六条…

「モテ」は簡単。威張らず、黙って話を聞け

七条…

「ありがとう」はまず形から

『プレジデント』（二〇一二年一月二二日号）から引用した文言だが、社会的にも名を上げた方からのこの七カ条を書いたメール

には、思わず吹き出してしまった。そしてこの文言を読みながら、リフォームの主導権がなぜ奥様方なのかの本質が分かったような気がした。

リフォームはリタイア前後の時期に考える方が多い。リフォームの打ち合わせにうかがうと、多くのご主人様は「家のことは家内にまかせているから」とおっしゃり、奥様中心にお話が進むことが多い。それをご主人様の指示の下で、奥様が動いているのだと考えていたのだが、どうやら少し違うのかも知れないと思っただのである。

妻が上司となり、夫を部下として取り仕切るとまではないかないまでも、夫の意見はあくまでも参考であり、すべての決定権は、妻が握って進められている場合が多くありそうだ。

夫が働いている間は、家は妻の城なのだが、休日には夫がリビングを占領することになり、夫はそれが日常で当然と思ひ、妻はそれを我慢と感じている場合があると聞く。リタイア後は、毎日リビングは夫主導で使われ続けるのだろうか？

昼間は妻だけで自由に使っていたわが家だったのが、夫のリタイア後に大きく変わることに妻は戸惑いを感じ、夫はそれが自然と思っている。そんなお互いの思いの違いがぶつかった結果、「愛されるジジイ」になるための心境が生まれ、たのかもしれない。

この七カ条を読んで怒りを感じる方、男として不甲斐ないと思う方、わが家は全く違うと思う方など、三者三様だと思ふ。しかし、男性だけの酒宴の話題として盛り上がっていることを考えると、皆様、どこか我が事として気になるフレーズがあるのだろうか。

ただ家のリフォームに関しては、夫と妻の双方が上司や部下の関係でもなく、戦うとかでもなく、共に今後どういう豊かな暮らしを築いていこうと思うのか、確かめ合うことが重要である。お互いの考えと暮らしを尊重しつつ、毎日を前向きに快く過ごすために、夫も妻も正面から徹底的に話し合った方がいいのではなにかと思う。リタイア後も、夫婦ともに暮らす年数は、まだまだあるのだから。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。(株)日本建築家協会正会員。